



長野県No.1のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面の重点作業について

1. 満開は昨年より10～12日程度早い状況となっている。自園の生育状況をよく確認する。
2. まだ凍霜害は、危険な時期です。報道・情報・指示により万全な対策を実施する。
3. 凍害の発生状況を確認する。発芽等は、貯蔵養分で動き始めるが、凍害に遭った樹は、弱樹勢になっていき、ひどい樹は枯死にいたるので、6月頃までは樹体をよく観察する。
4. 低温障害、落蕾症の発生もあるため、自園の状況をよく確認する。
5. ネクタリンの袋かけは第5回の薬剤散布終了後から行い、5月末頃迄に終了させる。
風当たりの強い圃場では、肌荒れが出やすいので外周だけでも早めに行う。
6. 初期生育を良くし、樹勢や玉肥大向上の為、かん水は重要になる。
この時期は平年並みの降水量でも不足する時期となるため、降雨が少ない場合は15日程度に30mm程度又は10日程度20mm程度のかん水を積極的に行なう。
7. 灰色かび病対策。果柄部にかく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の元となる。
結実よく、適果が遅れると特に目立つため、除去徹底をする。
8. 天候が不順な場合や樹勢が弱っている場合は葉面散布肥料を有効に活用する。

【もも薬剤防除】

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期…5月9日(火)～14日(日) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調合量…水100ℓ 当り
 - ┌ 固着性展着剤アピオンE…100ml (展着剤)
 - ├ コロナフロアブル…250ml (うどんこ病・灰星病)
 - ├ コルト顆粒水和剤… 50g (カイガラムシ類・アブラムシ類)
 - └ マイコシールド… 66g (せん孔細菌病)

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期…5月9日(火)～14日(日) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調合量…水100ℓ 当り
 - ┌ 固着性展着剤アピオンE…100ml (展着剤)
 - ├ (コロナフロアブル)…250ml (うどんこ病・灰星病)
 - ├ コルト顆粒水和剤… 50g (カイガラムシ類・アブラムシ類)
 - └ マイコシールド… 66g (せん孔細菌病)

【もも・ネクタリン薬剤防除共通】

1. 散布量…10a当り⇒500ℓ以上

2. 散布上の留意事項

- ①もも・ネクタリン混植園及び灰星病の花腐れが多かった園は、うどんこ病対策と併せ、コロナフロアブル400倍又はイオウフロアブル500倍（水100ℓ当り200ml）を加用散布する。
- ②第5回も、カイガラムシ防除薬剤が入るため、枝・幹等にムラ無く掛かるよう留意する。
カイガラムシの発生が目立つ園は、手散布により薬剤を掛ける。
- ③固着性展着剤アピオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍（水100ℓ当り33ml）を使用してもよい。ただし、混用は最後に行う。また、せん孔細菌病の少ない場合は、通常の展着剤（水100ℓ当り10ml）を使用してもよい。
- ④マイコシールドに代えてクプロシールド1,000倍（水100ℓ当りに100g）＋クレフノン100倍（水100ℓ当りに1,000g）でもよい。クプロシールドには薬害防止のためクレフノンを必ず加用する。展着剤はササラ3,000倍（水100ℓ当りに33ml）がよい。白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

◆葉面散布肥料を有効に活用

以前配布した「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考

- ①総合的な品質向上対策として、アミノ酸等のケルパック66、友果、オルガミン等を利用する。
- ②葉健全化や光合成能力向上として、マグネシウム（苦土）のビックマグ、グリーントップ70等を利用する。
- ③今後はマンガン欠乏の発生が見える時期となる。
毎年発生がある園は、発生前からの5月以降にグリーンデイズ・硫酸マンガンを利用する。

◆徒長枝になる新芽の

早期掻き取りについて

主枝・亜主枝の背面や大枝の切り口、さらに長果枝・中果枝の基部10cm内の直上芽（右写真）は、強勢な徒長枝となって無駄なエネルギーを使い、樹形を乱し良品生産を阻害する。

摘果作業に合わせ早めに掻き取り処分することが大事。結実量が少ない場合は、特に新梢管理に留意する。

◆ももうどんこ病並びにりんごうどんこ病（毛じ障害）について

毛じ障害は、りんご園（特に紅玉・つがる・シナノスイート等）の近隣では、特に多発が懸念されるため、注意が必要。

	もも うどんこ病	りんご うどんこ病(毛じ障害)
発生時期	落花30日頃から(本年は5月中旬頃)	落花15日頃から(本年は5月初旬頃)

★「ももうどんこ病」の対策

①重点防除時期は、定期防除(5回目)対策薬剤を使用しているので、しっかりと実施する。

★発生した場合の対策の対策

①果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側（ホゾ側）のものを優先に残し、空枝にはせず、適正着果量を確保する。

◆予備摘果を進める 詳細は前回情報参照

1. 予備摘果…満開後20～30日頃

①予備摘果を始める時期となっている。結実が確認でき、良好な品種から進める。

2. 着果量と着果位置

1)仕上げ摘果の倍の量が基準

①長果枝(30cm以上)⇒中央から先端に4～5果

②中果枝(30～10cm)⇒先端側に2～3果 ③短果枝(10cm以下)⇒先端に1果

2)留意点

①本摘果の倍量を残す。②大きくて扁平な果実を残す。③小さい果実、奇形果、病虫害被害果を落とす。

④同節に2果着生しているものは1果にする。⑤葉芽がある果実を残す。

⑥側方から下向きの果実を残す。⑦主枝や亜主枝上の果実や結果枝の基部の果実は落とす。

◆せん孔細菌病の春型枝病斑・灰星病を除去しよう！！

落花期より春型枝病斑の発生が散見されている。園地により、状況が異なるが、果実被害に至ると、商品化率に大きな影響を及ぼし、収量に影響するため、甚大な被害にならぬよう、対策を徹底する。

1. 春型枝病斑と葉への感染症状の特徴

①春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。

※枝先端に花腐れ・枝枯れしているものは、灰星病の可能性も高いが、せん孔細菌病である事もある。

いずれの場合でも、剪除は必要。

②葉では、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。



◆仕上げ摘果及びせん孔細菌病・灰星病対策講習会の開催について

下記の日程により講習会を開催致します。都合のよい会場にご参加下さい。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
5月8日	月	午前 9:00	南原 杉山一男様園	佐藤
		午前 9:30	小森 宮本芳樹様園	外谷
		午前11:00	上組 島田栄一様園	外谷
			今井公民館裏	佐藤
		午後 1:30	会 行之橋東 山岸秋美様園	外谷
			北原 飯島いえ様園	佐藤
5月9日	火	午前 9:00	河島茂雄様園	佐藤
		午前 9:30	中沢 北村政一様園	外谷
			本道 宮沢雄彦様園	根津
			川田 若穂営農資材センター南側	松沢・元田
		午前11:00	西寺尾杵淵火の見	外谷
			梵天 丸山芳樹様園 真島フルーツセンターへ15分前に集合	根津
			塩崎小学校南東 石川のぶい様園	寺澤
			本町 林今朝広様園	佐藤
午後 1:30	平井組 大屋俊一様園	佐藤		
5月10日	水	午前 9:00	阿弥陀堂 内村司様園	佐藤
		午前11:00	今里公園集合	佐藤
		午前 9:00	四ツ屋公民館前	佐藤
5月11日	木	午前 9:30	松代 五明秀樹様園	松橋
		午前11:00	川中島・荒屋 松橋公男様園	佐藤

《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311